

第 196 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 3 年 9 月 28 日（火） 13：30～15：45

場 所：浜田市役所本庁 4 階講堂 AB

出席者：岡田教育長 宇津委員 金本委員（欠席）花田委員 杉野本委員

事務局 河上部長 草刈課長 龍河副参事 山口課長 平岡副参事

永田副参事 鳥居室長 田中課長 濱見室長

書記：日ノ原係長 石田主事

新型コロナウイルス感染防止に伴う出席者の調整のため、議題、報告資料のなかった邊参事、猪木迫参事、岩崎分室長、細川分室長、馬場分室長、小松分室長は、欠席。

議事

1 教育長報告

2 議題

- (1) 令和 3 年度島根県市町村教育委員会連合会総会の書面決議について（資料 1）
- (2) 浜田市教育振興計画審議会について（資料 2）
- (3) 浜田市教育委員会ボランティア表彰について（資料 3）
- (4) 教育委員会自己点検・評価について（資料 4）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

- (1) その他

1 教育長報告

岡田教育長

本日は議題や報告事項が多いが、よろしく願います。2 学期がスタートして、小中学校の大きな行事である運動会や体育祭が無事に開催されている。来賓として招かれてはいませんが、コロナ禍での開催が非常に気になっており、いくつかの学校を訪問させていただいた。消毒や検温、保護者方の観覧の制限、子どもたちや種目上のソーシャルディスタンス、昼食を設けずに午前中で運動会を終了する等、各学校で感染予防に配慮されながら実施をしている。8 月以降、コロナの感染者が増えて、9 月に入って市内小中学校の学校関係者からも感染が確認されているため、教職員の方々も随分と気を遣われているものと思う。学校のコロナ対策に

については感染の予防というだけではなく、万が一学校で感染者が出た場合の具体的な行動レベルで意識合わせをするために、9月22日に臨時の校長会を開催した。これはいざという時に教職員、児童生徒、保護者の動揺を最小限に食い止めることを目的として、学校が教育委員会や浜田保健所と連携して発症後の対応を適切に行うということ、特に保護者への適切な情報発信の仕方について確認をしている。

それでは、お手元の資料に基づいて報告させていただきたいと思う。

① 8月24日（火）市長表敬（浜田商業・郷土芸能部）

浜田商業高等学校の郷土芸能部が全国の高文祭で第2位となる文化庁長官賞を受賞され、報告のために市長表敬にいられた。本来であれば東京にて、受賞者については郷土芸能を舞っている姿を見てもらう予定としていたが、残念ながらコロナの関係で東京には行かないという判断をされた。

② 8月25日（水）ベルガロッソ浜田協定締結式

浜田市とベルガロッソ浜田が連携協定書を締結した。具体的に申し上げると相互にPRをするということ、それから市民の健康増進やキャリア教育、人材育成等の協力事項を定めたものである。これにより、浜田市はベルガロッソ浜田のオフィシャルサポートシティになった。

③ 8月25日（水）定例記者会見

9月議会提案の市長の定例記者会見に同席した。教育委員会関連では、幼稚園の預かり保育を実施するための幼稚園条例の一部改正と金本教育委員の任期満了に伴う後任教育委員の同意案件を提案させていただいた。後任には旭町の岡山令子さんを推薦しており、明日が表決になっている。

④ 8月30日（月）歴史文化保存展示施設専門検討委員会（浜田まちづくりセンター）

現在、活用と展示の両面から議論が進んでいる。次回は10月4日に開催予定であるが、この日が最終の検討委員会になる予定である。

⑤ 9月1日（水）9月議会開会（提案説明、全員協議会）

この日から議会が始まっている。9月2日から7日の間に行われた一般質問では、医療ケア児への支援、給食費の公会計化、石見神楽の文化財指定、いじめ問題、学校統合に伴う通学路の

安全確保等、また子どもの貧困等が問われた。詳細については本日の報告事項の中で用意しているため、後ほど担当課長から説明がある。

⑥ 9月10日（金）柿田勝郎面工房訪問

一般質問の中で石見神楽の文化財指定について2件の意見があり、早速、柿田面工房を訪問して神楽や伝統工芸品について色々なお話を伺ったところである。

⑦ 9月15日（水）市長表敬（全国小学校陸上競技交流大会・横浜）

横浜で開催された全国小学校陸上交流大会に市内の小学生2名が出場され、市長表敬を受けている。今、小学生は単一の種目だけではなく、2種目の複合種目を組み合わせて全国大会を目指す取組をされている。

⑧ 9月15日（水）公立幼稚園PTAの要望対応

これは公立幼稚園の存続と統合する場合の具体的な姿についてきちんと説明をしてもらいたいということ、それから預かり保育や給食を実施してほしいということ、それからクラスの編成や職員体制を充実させてほしいといった内容が主な要望であった。預かり保育など、現在進展中のものもあるが、統合幼稚園あるいは新園の建設等を見据えているため、給食の完全実施や職員体制の拡充、あるいは遊具整備についても要望が出たが、なかなか現時点での整備は難しいとお伝えしている。今後もPTAの皆さん方への丁寧な情報提供に努めていきたいと考えている。

⑨ 9月21日（火）高校魅力化協議・浜田高校校長面談

浜田高校に市長と訪問した。高校の魅力化について、校長や教頭、それから進路指導の先生方と意見交換をさせていただいた。現在の浜田高校の現状や優位な点を中学校の教員や生徒、保護者にきちんと伝えることが重要ではないかと考えている。

⑩ 9月24日（金）島根県教育功労者表彰伝達（藤本孝男元教育委員）

元教育委員である藤本孝男さんに教育功労者表彰の伝達を行った。

⑪ 9月24日（金）総合振興計画に係る議会との意見交換会

総合振興計画に係る議会との意見交換会に出席をしている。

⑫ 9月25日（土）浜田市科学作品展（ふれあいジムかなぎ）

浜田市科学作品展の見学をした。小学校から 63 点、中学校から 55 点の展示があった。夏休みだけではとてもできない、長期間にわたって観察している様な作品もあり、生物や化学、物理等、多方面の分野の研究等の力作が揃っていたと感じた。これらの中から 10 点を県に推薦をさせていただく。

⑬ 9 月 27 日（月）税に関する絵はがきコンクール浜田地区審査会

浜田市から 13 校、325 点の応募があった。納税という憲法に定められた国民の義務の周知のために、子どもたちが税に関する色々な思いをはがきに絵を描いて周知に協力してくれている。あるいは自分の気づきにしていこうかと思っている。これからも大切にしていきたい事業であると思っている。

1 か月間の報告は以上である。

今のところで、質問等はあるか。

質疑応答

宇津委員

新聞で浜田市の校長会に市長が出席したという記事を見た。市長自らが足を運ばれることは非常に素晴らしいことだと感じた。訓示なり、あるいは訪問された内容や校長先生方にどんな話をされたのか少し聞いてみたい。

岡田教育長

これは9月22日の臨時校長会に市長が出席されている。特に今、学校でもコロナの感染者が出ている状況の中で、浜田市の現状を少し話された。それから高校生については、各高校を訪問されており、高校生の積極的なワクチン接種についても校長先生方に話をされている。ただ、中学生あるいは12歳以上の小学校6年生となると、まだまだ体の発達途上であり、副反応等色々な心配があるため、なかなか強制はできないが、ワクチンの接種率が高まるごとに感染者数が落ちている現状もある。今のところ健康に関する不安な治験はでていないため、強制ではないができれば接種してもらいたいということ、そのことはきちんと保護者の方に判断してもらおう様に伝えてほしいといった話をされた。

宇津委員

承知した。

岡田教育長

その他はよろしいか。

各委員

特になし。

2 議題

(1) 令和3年度島根県市町村教育委員会連合会総会の書面決議について（資料1）

岡田教育長

資料1をご覧いただき、このことについては私から提案の説明をさせていただきたいと思う。

連合会事務局から資料1が送られてきた。その中で令和3年度の今年の総会がコロナの感染予防の観点から会議を開催せずに昨年度に引き続いて書面総会となるため、教育委員会で議案について協議をした結果を教えてほしいという内容である。

議案の1ページをご覧いただき、ここには昨年度の会務報告が載っている。5月19日の全国総会、7月22日の県の総会も中止となり、10月15日の中国地区の総会も書面開催となっている。9月30日は令和3年度の文教施策と予算措置に関する要望を取りまとめたものを県の教育長に要望活動を実施している。毎年、継続した事項、職員の配置の充実や学校施設、教材等の充実が中心となっているが、令和3年度の要望についてはGIGAスクール構想における人的支援の拡充や校務支援システム導入の支援等が加わっている。更に人事異動ルールの見直しに係る取組についての要望も出している。人事異動のルールについては、10月に県から一部改正の内容が示される予定になっている。

3ページの第2号議案、令和2年度の決算書であるが、理事会や総会等が書面開催となり、事業費の不用額が非常に増えている。そのため、決算額が予算額を大きく下回った結果となり、繰越金が863,659円であった。令和2年度の決算書の中では補正はしていないが、次年度の予算の中でこのことについては公表されている。

6ページをご覧いただき、第3号議案、これは連合会会則の一部改正についてである。改正理由については7ページに記載されている。今は役員の任期中に教育長や教育委員が交代した場合に、後任の方が残任期間にその職務を行う取り決めがない状況であるため、これを改正するとともに、併せて総会及び理事会の定足数及び議決方法を明記するものがなかったため、改正をしたいといった内容である。改正箇所については、11ページの会則をご覧いただき、赤字で示してあるところが改正した部分である。

それから14ページをご覧いただき、第4号議案である。これは今年度の事業計画の案である。例年とほとんど変わりはない内容であるが、ただ7月15日に予定していた総会、理事会及び研修会

は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止されている。今後、Web 会議で開催したいということで、通信環境の調査もされているため、そういった取組が進んでいる。同様に 15 ページについては、令和 3 年度の会計予算案である。コロナの影響で支出額が変わってくることもあるが、見立てが難しいため、ほぼ例年並みの予算が計上されている。ただ、歳入のところでは前年度からの繰越金が多かった関係で各市町村の負担金が減額されている。18 ページをご覧ください、本来であれば人口割負担金、均等割負担金、上部負担金を国や中国地区の連合会に納める負担金として、これらのものを合算したものを納めている。ただ、今年度については人口割と均等割の負担金は不要ということで、上部の負担金のみを計上してもらいたいといった内容である。したがって、本来浜田市の場合は 41,401 円を負担金として支払うが、人口割と均等割の負担がないため、上部負担金 12,555 円のみとなる。

最後に第 6 号議案について、19 ページをご覧ください、連合会理事の案である。そして 20 ページに役員の方ということで、浜田市教育長が副会長となっている。以上、全体をとおして第 1 号から第 6 号議案までの説明をさせていただいた。

ご意見等あればお願いします。

宇津委員

監査結果報告のところでは監事が 2 名いるが、署名が 1 名分しかないが、このかたちで良いのか。

岡田教育長

監査結果報告は秦さんと松田さんがそれぞれ別々に行っている。

宇津委員

同じ内容のものということか。

岡田教育長

住まいが別々であったため、別々をお願いして署名していただいている。本来であれば連名である。

宇津委員

承知した。

もう 1 点、浜田市の内容のものではないと思うが、何年か前に人事異動に係る人事権の権利の県からの移譲について、松江市から要望が出て随分議論がなされた経緯がある。最近は少しトーンダウンしているのかなと思ったりしたが、しかしこの度、またルールの見直しが諮られるということで、問題が再燃する火種になる可能性がある気がしている。その辺りは議題に挙げるべきものではないとは思いますが、感触として、または情報として何か入っているか。

岡田教育長

今回のルールの見直しであるが、他地域勤務の線引きやへき地

校の線引きを見直すということである。これは決して石見部だけが利を得るとはわけではなく、松江や出雲の先生方も若い方が出ていたり、行き先が既に埋まっていて決まらない等、色々な状況で悩みを抱えておられる。このルール改正は松江や出雲にとっても少し利がある内容と聞いている。したがって、本当は人事権については松江や出雲は自分のところで何とかしたいという思いがあるが、とりあえず一步、より人事がやりやすい状況に今回変わっていく。再燃するきっかけというよりは、少し思いが叶ったという意味で良い方向に向かっている。ただし、あくまでも人事権は市町村それぞれでという思いがあるため、しばらく平行線が続くのかなと思う。

その他はよろしいか。

各委員
岡田教育長

特になし。

それでは、今回の議事資料、議案について浜田市教育委員会として承認するという事によろしいか。

各委員
岡田教育長

全会一致で承認

ありがとうございました。

(2) 浜田市教育振興計画審議会について (資料2)

草刈課長

6月3日の総合教育会議でも協議している教育振興計画であるが、教育振興計画審議会について説明をさせていただく。

資料2をご覧いただき、1. 計画の構成については先般も説明したとおり、前回と同様に総合振興計画及び浜田市教育大綱の実現を目指す実施計画の位置付けである。

2. 審議会委員であるが、裏面に15名の名簿を付けている。1ページ目の下段に浜田市附属機関設置条例の規定が載せてあるが、委員等の定数について識見者7名、公共的団体の役職員5名、その他教育委員会が必要と認める者3名で15名となる内容である。このうちの3名、名簿では13、14、15の方であるが、今回全て公募委員ということである。この3名の方は、浜田市総合振興計画審議会の公募委員と兼ねるということになっており、前回は公募委員がおられなかったが、変更となっている。

委員の任期としては、10月7日から来年3月31日までである。

3. 計画期間については、令和4年度から令和7年度までの4年間である。

4. 諮問内容についても、浜田市総合振興計画後期基本計画及び

市教育大綱の実現のため、具体的で実効性のある実施計画として策定を諮問する。

5. 今後のスケジュール（予定）であるが、第1回教育振興計画審議会が10月7日の予定である。ここで諮問と策定方針の提示をする予定である。11月から1月までのところで、第2回から第4回までの審議会で内容を検討し、その間に11月の総務文教委員会で審議会を設置する概要の説明させていただく。第4回までのところで内容を検討し、1月中旬ぐらいに答申をいただく予定としている。答申をいただいて、計画案について1月の議会総務文教委員会で計画案の説明を行う。1月から2月の間でパブリックコメントを募集する。それを踏まえて、必要があれば修正をして、2月下旬の教育委員会の会議において、審議、計画の決定を承認していただくといった内容である。そして、計画の報告を3月の議会総務文教委員会、全員協議会、それから3月に第5回教育振興計画審議会を開催し、計画の報告を行う。あくまで現時点の今後のスケジュールの予定であるが、このスケジュールを進めていきたいと考えている。資料2については以上である。

岡田教育長

今年度、浜田市教育振興計画の策定年度ということで、資料に記載があるとおりの審議会のメンバーの構成により、このスケジュールに沿って計画策定を進めたいといった内容である。

質問等あれば願います。

各委員

特になし。

岡田教育長

元々、教育振興計画は浜田市の最上位の計画である総合振興計画がある程度固まってきた時に、それを受けての実施計画の実現にもなるため、おおむね総合振興計画の案が固まってきた段階で教育振興計画が動き出す。日程的には非常にタイトなスケジュールではあるが、この予定で進めさせていただきたいと思う。よろしいか。

各委員

全会一致で承認

岡田教育長

ありがとうございました。

(3) 浜田市教育委員会ボランティア表彰について（資料3）

山口課長

資料を1枚捲っていただくと実施要綱を載せている。目的、第1条にあるとおり、子どもの安全確保や防犯に関する優れた活動を行った地域活動団体及び個人に対し、その活動を表彰するものである。第4条では、具体的な活動内容を挙げている。声かけ、

	<p>あいさつ運動、見守り、パトロール活動等、子どもの安全確保に関する活動である。この要綱に基づいて校長先生から推薦をされる。今回は周布小学校、石見小学校、旭小学校の3校から全体で個人2名、1団体の推薦があった。</p> <p>活動内容については、基本的には見守り活動、安全指導が中心であるが、長年取り組んでいただいております、2名の方と1団体を表彰対象としたいと思う。</p>
岡田教育長	<p>浜田市教育委員会ボランティア表彰について、実施要綱に触れながら今年度は2名の方と1団体の推薦が校長からあった。内容をご覧いただき、この方々を推薦することについてご意見等あればお願いします。</p>
杉野本委員	<p>3番、旭小学校の旭地区防犯パトロール隊の隊員は何人いるのか。</p>
山口課長	<p>人数までは承知していないが、基本は今市地区、丸原地区、木田地区の方が分散して全体で取り組まれている。非常に多くの人数であると思う。</p>
杉野本委員	<p>きちんとしたグループで組織されているのか、何となく誰でも活動に参加できるのか。</p>
山口課長	<p>資料を見ていただくと中段に、特に旭小学校の半数以上があさひ社会復帰促進センターや、丸原地区の方から旭インターチェンジ付近の交通量の多い横断歩道をわたっている。そういったところを重点的に見守りや、交通安全指導をしていただき、学校までの道のりを安全にパトロールしていただいている。見通しが悪く信号機がないため、毎朝、数か所に立っていただき、見守りをされている。今年から「ながら見守り隊」といって、浜田警察署の推薦もあってモデル地区ということで、下校時についても地域全体で見守りをしようということで活動も始められている。そういったことも含めて、学校から推薦があった。</p>
岡田教育長	<p>また人数がわかれば教えていただければと思う。</p>
山口課長	<p>承知した。</p>
岡田教育長	<p>その他はよろしいか。</p>
各委員	<p>特になし。</p>
岡田教育長	<p>それでは個人2名と1団体の表彰について、承認していただけるということでよろしいか。</p>
各委員	<p>全会一致で承認</p>

(4) 教育委員会自己点検・評価について (資料 4)

日ノ原係長

令和 2 年度の事業について評価していただきたいと思う。本日、ご意見をいただき、ご意見を受けて修正したものを来週、再来週のところで委員方に送付させていただきたいと思う。委員方にご確認いただいたものを最終的には、12 月議会の総務文教委員会に提出したいと考えている。

中身については例年どおり、先に個票の評価表をご審議いただき、その後、頭の総評に戻っていただくかたちで進めていきたいと思う。よろしく願います。

岡田教育長

この資料はボリュームが多いが、事前にご確認いただいていると思う。今、説明にあった様に先にそれぞれの個別の評価表からご意見をいただいて、総評に戻るというかたちで進めたいと思う。1つ1つというわけにはいかないため、グループを区切ってご意見をいただければと思う。

まず、I 学校教育の充実について、10 ページのNo.1 から 34 ページのNo.18 までが、(1)生きる力の育成についてまとめたものである。No.1 からNo.18 までのところでご意見があればお願いしたいと思う。なお、本日欠席されている金本委員から少しご意見をいただいているため、紹介をしながら進めていきたいと思う。

日ノ原係長

金本委員からいただいているご意見であるが、21 ページのNo.9 学校支援員配置事業について、今回、学校支援員を増員したところであるが、学校支援員の研修が中止となっている。増員したことにより質より量という感じを受ける。一部の学校から資質に欠ける職員もいるのではないかという意見を耳にしているというご意見をいただいている。

花田委員

同じ意味合いの意見であるが、22 ページの評価として「学校支援員を配置したことは評価できる。」や「6 校に配置した。」とあるが、これは事実であって評価ではない。評価として、学校支援員を増員したことによる効果はどうであったかというところを分析する必要があるのではないかと思う。

岡田教育長

今のご指摘について、何か意見はあるか。

山口課長

まず、金本委員からのご意見で研修についてであるが、実際に毎年新しい方が赴任されて、本当に人に関わる大切な業務である。この部分については、コロナに関わらずきちんとやっていきたいと思っている。その部分については、評価のところでも「やる」というかたちで改めたいと思う。

次に花田委員からのご意見であるが、実際に予算も教育委員会の中で非常に配慮していただき増額した。実際の効果について議会からも求められているため、精査させていただき、追加、修正したいと思う。

岡田教育長

2名の委員方からご指摘いただいた様に、確かに配置した支援員さんにも研修を重ねていただき、より子どもたちに寄り添うかたちで指導できるよう身に付けていただきたいと思います。その中で、やはり研修会がコロナの関係で中止になったとはいえ、そうした一助となるものが中止になっていることにきちんと振り返って、さらに研修等について取組んでいかなければならない。色々なノウハウを身に付けていただくための研修会に力を入れる等の内容を加筆する必要があると思う。先ほど、学校教育課長が回答した内容を踏まえて、その様な内容を加筆、修正してもらえたらと思う。その他はいかがか。

宇津委員

No.4 学力向上総合対策事業についてであるが、この中で特に強調されているものが評価の中でも文言で出てくるが、「特に算数・数学についてはここ数年、改善が図られていない状況にある。」とあり、算数・数学についての力が欠落している。これは、ここ1、2年の話ではなく、随分前から算数・数学についてはずっと指摘をされている。なかなか改善の跡が見受けられない。非常にポイントの中でも差が大きい。これに関して、何か手を打っていかねばならないのではないかと思う。

以前は、算数・数学に関わる指定校制度も導入されていた経緯があるが、具体的に本腰を入れて取組んでいかないと、このままずっと毎年課題であると言いつけていくことになってしまう。抜本的な改善が必要であり、浜田市独自のものでも良いとは思いますが、そこに予算化がされなければ、なかなか難しい面もあると思うが、特にこのことについての取組が何か出来ないものかと思う。

岡田教育長
鳥居室長

今のご指摘に対していかがか。

算数の指導主事がいるが、学校への訪問指導を1校につき2回行っている。小学校については必ず算数も行っている。その中でも算数は特に訪問指導が多い。指導主事の方から算数の指導についてコメントしていくということと、今年度スタートの時には準備が出来ていなかったが、今回の県や国の学力調査からこれが課題であるというものが見えてきた。このことについて、今後の研

修や訪問指導で重点的に指導していく。それから、まだ校長会では伝えてないが、今度の校長会で学力調査の研修会を開催させて欲しい、その中で算数・数学に特化した授業改善の方法を示すとかたちで今、手立てをしている。

岡田教育長

このことについて、私からも追加で申し上げたい。冒頭、教育長報告の中で浜田高等学校へ行き、市長と校長、教頭先生と話をさせていただいたと話をしたが、その中でやはり、算数・数学の力が非常に弱くなっているという指摘を受けた。学力向上を目指す上で、この視点を改めて見直すことはできないだろうかという宿題をいただいている状況である。

今、学力向上推進室長が回答したとおり、このことについてはどの様にするかしっかり話をさせていただきたい。先ほど回答している内容が骨格になっていくと思うが、この点についてはしっかりと取組んでいきたいと思う。その他はいかがか。

各委員

特になし。

岡田教育長

続いて、35 ページのNo.19 から 43 ページのNo.24 まで、(2)一人ひとりを大切にする教育の推進についてのところで、ご意見等あればお願いします。

花田委員

No.19 児童生徒健全育成事業についてである。評価のところを見ると「中学校で 6 人が学校復帰することができた。」とか「山びこ学級が不登校児童生徒の受入施設としての役割を果たしている。」と評価しているが、35 ページの令和 2 年度の実績を見ると、不登校の生徒が市内で何人いるということが分かりにくい。通級者は延べ何人で、実際に小学生が 4 人で中学生が 8 人とあるが、その人数は市内の不登校児童生徒数の全体の数からしてどのくらいの割合なのかというところで考えて評価するとどうなのか。数人は救えたが、全体としてはどうなのかというところだと思う。色々な関係機関との関わりもあると思うが、全体が見えない。何人かは学校復帰できたから役割を果たしていると言っているのか分からない。何人かは良かったかもしれないが、設置している意味と役割として、市としてそこができていえるのか疑問に感じる。全ての子どもが山びこ学級に通える様に、山びこ学級も色々かたちを変えたり、対策を練って、通いにくい理由を分析したりして、もっと通える様にするということが必要であるならば、この振り返りは甘いと思う。このかたちのままで良いとしていいのか疑問である。

岡田教育長
山口課長

今の指摘について、いかがか。

数的には即答できないが、今年度8月末の段階、2学期が始まる前のところで、小中学生合わせて20人の登録があった。小学生、中学生、ほぼ同数であったと思う。全不登校児童生徒のうちの一部が登録している実数で20人である。なおかつ、その中から毎日山びこ学級に通っている子どもはさらに少なくなる。花田委員がおっしゃるとおり、不登校の児童生徒全体のうち、山びこ学級に何人通っているという様な評価の裏付けをもっとしっかりしなければならぬと思う。山びこ学級は教育支援センターという位置づけであるため、山びこ学級の位置づけをはっきりとさせた上で改めて評価をし、加筆したいと思う。

岡田教育長

今のご指摘は、確かに受け皿として何人か児童生徒が通っているが、学校にそもそも通うことができない児童生徒数全体の中で果たしている割合は決して大きくないため、その割合が大きくなることに向けての評価が必要なのではないかと思う。それが課題ということで評価の中に書き込んでいくという事もあると思うが、いずれにしてもその対比が分かる様なものを入れ込む必要があると思う。

花田委員

どの子にも万能ではないと思っている。それは前提としてあると思っている。子どもさんのタイプにもよるし、不登校のタイプにもよるため、本当に色々なケースがあると思う。

毎年、同様の意見を伝えていると思うが、色々な居場所があって良いと思う。不登校の数がそれぞれの小学校で何人ではなく、その子どもたち一人ひとりが、どこの誰と繋がっているのか、どの様な関係機関と繋がっているのかということである。学校訪問した時に意識の高い学校は、子どもさんと関係機関の繋がりを把握されて週に何回通って、こういった生活していると把握している学校も何校かあった。毎年、学校訪問に行く度に変化があって良い変化だと感じている。問題があるとすれば、把握できずにほったらかしになっている子どもがいることである。家に引きこもっていると知っているが、何も手立てができていない子どもたちがいると思う。その把握を委員会として、各学校の誰々がどうなっていて、その子どもたちがどこに繋がっているのか、繋がっていないのかというところで危険度がそれぞれ違ってくると思う。その辺りの把握も含めて、山びこ学級が機能する子どもたちが何人いるということであれば、説得力がある。他の子のことは知りま

	<p>せんということではいけないと思う。その辺りも含めて意見として伝えさせていただいた。</p>
岡田教育長	<p>ありがとうございました。事務局でも十分受け止めているためその辺りについては修正をしたいと思います。書き振りというより、実際の対応が必要であると思う。</p>
	<p>その他はいかがか。</p>
各委員	<p>特になし。</p>
岡田教育長	<p>続いて、(3)食育と体づくりの推進ということで、44 ページのNo.25 からNo.28 までのところで、何かご意見等はあるか。</p>
日ノ原係長	<p>金本委員からのご意見であるが、46 ページのNo.26 学校給食での地産地消の推進についてである。この実績を見ると、学校給食の地産地消＝野菜という印象を受ける。No.25 とも関連するが、肉、魚も使用しているのではないかとご指摘をいただいている。</p>
草刈課長	<p>地産地消については、おっしゃるとおり野菜だけではなく肉や魚もカウントをしている。その結果が 61.9%と評価に記載している。その下の地元食材が地域へ入っていく指導の中では確かに野菜のところ、旭や松原小学校の例を挙げている。44 ページの一つ前の部分で、魚のアジまるごと一尾の例を大きく掲載したため、こちらでアジについて記載しても重複すると考えて、この様なかたちになった。</p> <p>実際に学校が行くとなると、やはり農業の体験や見学が多く、なかなか漁業の体験や見学へ行くということは少ない。実際に事例としても農業の体験、見学で美川小学校も農業の分野で食に対する体験をしている。他にもあるが、この2つの事例を挙げさせていただいた。</p> <p>確かにおっしゃるとおり、地産地消ということ言えば、牛乳もあり、魚、肉、もちろん野菜もある。そのことが地産地消の調査には当然入っているという認識で記載をして、46 ページではこの様な記載となった。</p>
岡田教育長	<p>印象としてそれが伝わっていないのであれば、金本委員からのご意見を参考に見直しをしていただきたいと思います。</p>
草刈課長	<p>承知した。</p>
岡田教育長	<p>併せてNo.27 についても願います。</p>
日ノ原係長	<p>はい。No.27 学校体育大会支援事業について、評価の書き振りについてである。評価の最後の行のところに「保護者の経済的負担を軽減し、安心して出場できる環境づくりができたことは意義</p>

がある。」とあるが、安心して出場できる環境づくりについては、経済的というよりはコロナ対策のように感じるというご意見をいただいている。ここの部分について書き振りを修正してはどうかというご提案である。

岡田教育長 経済的負担を軽減するということと安心して出場できる環境づくりというものが主と従という関係なのか、あるいは、並列の関係なのかで違うため、金本委員からのご意見を踏まえて修正をしてみてもどうか。

宇津委員 同じNo.27 の評価についてであるが、中学 3 年生にとっては夏の夏季総合体育大会が色々なことを勘案して開催されたということが中学 3 年生にとっては十分とは言えないまでも、自分たちの 3 年間の思いをぶつける機会があつて良かったと思った。これは将来にわたって、思い出になる中学校の部活動になったと思う。

岡田教育長 ありがとうございます。今のご意見についても事業の評価として記載していただけたらと思う。その他はよろしいか。

各委員 特になし。

岡田教育長 続いてⅡ家庭教育支援の推進について、50 ページのNo.29 から 57 ページのNo.36 までのところでご意見等あるか。

花田委員 51 ページのNo.30 家庭教育支援チームの結成であるが、この事業が進んだと感じた。

宇津委員 支援チームの結成に関わり、モデル地区として 3 つを設けられたことは一歩前進したと思ったが、そこでの取組を目に見えるかたちで文書であったり、写真であったり、見える化を図られて、それをご覧になった他の地域の人たちが「いいね」という思いを持つことが広がりにつながってくるだろうと思う。「いいね」「いいね」という反応が出てくるとしめたものだと思う。その様な企てが必要かなと思う。評価には「それぞれの地域でも取組を広げていく必要がある。」とだけ記載があるが、より具体的なものを少し入れておく取り組みやすいと思う。

岡田教育長 いかがか。

永田副参事 確かに宇津委員のおっしゃるとおり、必要があると記載し、実際には今年度に入ってその様な事例を紹介している。また、石見公民館で作成したプログラムを実際に今年度に入って実行しているため、その様なところを評価の中に反映させて書き振りを修正したいと思う。

岡田教育長	具体的な取組について、書き振りを書き加えるということをお願いしたいと思う。その他よろしいか。
日ノ原係長	金本委員から 56 ページのNo.35 青少年団体育成補助事業について、他の事業に比べて文章量が少ないということで他に書けるようなことはないかというご意見をいただいている。
永田副参事	実際に活動を自粛しているため、なかなか増やすということは難しいと思う。
岡田教育長	元々、何団体くらい申請しているのか分かるか。海洋少年団とボーイスカウトの 2 団体だけか。
永田副参事	全体の数を把握していないが、補助事業を行っているのはこの 2 団体だけである。
岡田教育長	この 2 団体が継続してきたので残っている指標であると思うが、今、新しく協働のまちづくりを進める関係で少年団等、色々な支援をするメニューが増えた。事業内容がこの事業とぴったり同じか分からないが、その様なことでも育成支援に繋がっていることもあるため、一緒にすることはできないか。何かこの事業にも対応しているものはないか。2 年度の評価には書けないかもしれないが今後、その辺りも検討していただければと思う。その他よろしいか。
花田委員	57 ページのNo.36 青少年自立支援事業についてであるが、評価の中に「訪問による相談・支援等の充実を図っており、新たな居場所利用や社会参加に繋ぐことができたことは評価できる。」とあり、非常に大事なことで良いことであると思う。だが、実績の中の 2 居場所活動等の充実、相談・支援、他機関との連携のところで、(3) 訪問による在宅支援の充実とあるが、訪問の回数は出ないのか。延べ相談件数 1,356 件とあるが、これは全部を含めて 1,356 件なのか。
平岡副参事	全部を含めて 1,356 件で、訪問では 322 件である。
花田委員	訪問回数について記載があれば、たくさん訪問してくれたと感じることができるため、是非、記載してほしいと思う。
岡田教育長	ありがとうございます。では、その様に記載をお願いします。
宇津委員	ここで言う居場所というのは、具体的には山びこ学級のことか。
平岡副参事	いいえ。青少年サポートセンターの居場所ということである。
花田委員	青少年サポートセンター、青サポである。40 歳まで利用できる。

岡田教育長 各委員	その他はよろしいか。 特になし。
岡田教育長	続いて、Ⅲ社会教育の推進について 58 ページのNo.37 からNo.54 までのところでご意見等はあるか。
日ノ原係長	1 点、事務局から修正をお願いしたい。73 ページのNo.48 から 79 ページのNo.54 まで図書館の関係が続くが、担当課について教育総務課と記載しているが、生涯学習課の誤りということで訂正をお願いしたい。目次では生涯学習課となっているが、個票では教育総務課となっているため、生涯学習課に訂正をお願いする。
岡田教育長 宇津委員	内容について、ご意見はあるか。 No.40 の自然体験活動の推進について、2 年度の実績のところでは文章表現の頭のところで、1 つは「特色ある自然体験活動実施事例集」及び「海洋教育実践事例集」とある。この「事例集」のところが下の評価のところでは、「海洋教育実施概要集」となっている。この辺は統一をした方が良くと思う。
岡田教育長	これは具体的な資料の名称であるため統一して、修正する必要がある。ありがとうございました。その他よろしいか。
各委員	特になし。
岡田教育長	続いて、Ⅳ生涯スポーツの振興について、80 ページのNo.55 からNo.62 までのところでご意見等はあるか。
各委員	特になし。
岡田教育長	続いて、Ⅴ歴史・文化の伝承と創造について 89 ページのNo.63 からNo.75 までのところでご意見等はあるか。
日ノ原係長	金本委員から 100 ページのNo.74 歴史文化保存展示施設整備事業と 101 ページのNo.75 浜田城周辺整備事業の両方についてであるが、内容の欄でNo.74 では 2 行目のところに「令和元年に迎える浜田開府 400 年」と記載があるが、今回は令和 2 年度のものになるため「迎える」を「迎えた」にしてはどうかというご指摘をいただいている。同様にNo.75 についても内容の冒頭に「令和元年に迎える」とあるものを「令和元年に迎えた」に変更してはどうかというご指摘をいただいている。
岡田教育長	はい。ご指摘どおりである。修正をお願いする。
田中課長	承知した。
岡田教育長	その他はいかがか。
花田委員	90 ページのNo.64 世界こども美術館の管理運営について感想になるが、こども美術館を利用させていただく機会が何回かあり、

実際にコロナウイルス感染症の対策として、美術館の開館を止めてしまうことは簡単だったと思うが、その様な状況の中でもどのような感染症対策を実施したら開館できるかと非常に考えてくださっていて、工夫もされていた。順番に回していくルートをどうするのか、本当に利用者の方の感染症対策等を考えてくださっていると感じた。そのため、非常に利用しやすく、とても良かった。令和 2 年度なのに非常に頑張ってくれたという感想と印象がある。

岡田教育長

是非、こども美術館に伝えてほしいと思う。コロナ禍であっても工作キットを作ってみたり、週末だけは時間を区切ってみたりと様々な工夫をされていたと思う。

その他よろしいか。

各委員

特になし。

岡田教育長

冒頭に戻っていただき、総評について説明をお願いします。

日ノ原係長

はい。3 ページについては特に変更がないため、4 ページ目以降の I 学校教育の充実から、7 ページの V 歴史・文化の伝承と創造までのところでご意見をいただきたいと思う。冒頭の表現のところでは変更はないが、「令和 2 年度は」という書き振りのところ 2 段落目のところから令和 2 年度の主な事業について記載しているため、そちらを中心にご覧いただき、ご指摘、ご質問等をお願いします。

岡田教育長

先ほど、個別に見ていただいたものの総括である。事務局から説明があった様に、「令和 2 年度は」以降のところの書き方について、ご指摘があればお願いします。

まず、I 学校教育の充実についてはいかがか。

先ほど、個別の部分で委員方からご指摘を受けた部分で、冒頭を少し手直しする部分はあるか。もし、あるようであれば、これから事務局でもう一度考えて、修正案の方で活かしていただければと思う。

日ノ原係長

承知した。

岡田教育長

ここで一つ一つ確認をするということは難しいと思うため、個別項目で指摘があったところを反映できているかどうかは確認をお願いします。

日ノ原係長

承知した。

宇津委員からご指摘をいただいている 5 ページの III 社会教育の推進のところ、「海洋教育実施実例集」という言葉を使って

いるため、先ほど統一する様にとご指摘がありましたので、その中で言葉が異なるようであれば修正を行う。

岡田教育長 後は検証の見立てのところ、実際にあった件数が全体に比べてどうかという視点を加えて評価すると変わる部分があれば、修正していただきたい。

花田委員 II家庭教育支援の推進について、何かご意見はあるか。
全体的に4ページの3行目の様に、「推進する必要がある。」5ページの下2つの段落にも「取組を広げていく必要がある。」「継続が必要である。」という表現が弱いと感じる。「継続していく。」「取り組みます。」という様な書き方はどうか。元々必要はある。

岡田教育長 思いや決意的なものが、やはり言葉の中に現れる方がいいか。今のご指摘を受けて、改めて全体を見直すか。

日ノ原係長 強い思いのところは、「すべきである。」というかたちに表現することが出来ると思う。

岡田教育長 あるいは、「取り組みます。」とか。
「必要がある。」という表現は、何か他人事のように感じる。教育委員会としてどうするのかという意思を示すとしたら、その様なかたちになる。

日ノ原係長 言い切るかたちにするかどうかである。

岡田教育長 今のご指摘について、冒頭の総括について見直しをする様に承知した。

日ノ原係長 承知した。

岡田教育長 続いて、III社会教育の推進について、何かご意見はあるか。

各委員 特になし。

岡田教育長 続いて、6ページから7ページのIV生涯スポーツの振興、V歴史・文化の伝承と創造について、何かご意見はあるか。

杉野本委員 非常に違和感があるが、評価報告書は議会に報告するという事か。市民に公表するという事か。

日ノ原係長 両方である。

杉野本委員 私は学校教育関係者であったため、年度の感覚が4月から3月を年度と考えるが、歴史・文化と伝承と創造の最後の部分に「令和3年度においても」とあるが、この報告書を出されるのが9月である。半年過ぎて、令和3年度にこの様にしていきたいということを示すことはどういった意味があるのか。例えば、予算編成の問題等、事務的処理の関係でこの時期でないと思えないのか、大体は年度末に終えて新年度に向けてここを改善していくということがPDCAサイクルだと思うが、今、何故このことをしてい

るのかという思いである。こんなことを言ってもいいのか分からないが。

草刈課長

令和2年度の決算が締まるのが5月末で、調整等で6月くらいに締まった後になるため、数字上はそこで確定する。例えば工事等の金額が載っていたりするが、その部分で言えば、6月の時点で締まってから正確な数字が決まる。ソフト面内容についての評価をその後行うことになるため、スケジュール的にどうしてもこの様な時期になる。3月のところで出来ればいいが、なかなか3月の時点では数字も固まっていないという様な問題点がある。4月から3月の年度であるが、出納閉鎖である5月を目途に数字を固めて、調整や修正があり最終的には6月に数字が固まる。その様なことを踏まえた中で数字が固まり、内容の評価、それぞれの分析評価という流れになる。文章を作成、その他の事務を合わせたら、この様なスケジュールになっているというところが現状である。

日ノ原係長

内情を申し上げますと、先ほど草刈課長からも説明があったが、決算を5月末で締めて、お金の関係は5月末で締めて6月に確定する。7月に各課に報告書の初稿作成依頼を行い、その初稿を事務局、教育総務課で確認をしながら各課へこの様なものが抜けているのではないかという様なことの返しを8月に行う。それから修正、加筆後のものを事務局で再度確認し、今回、教育委員会定例会の一週間前までに委員方へ送付するというタイムスケジュールで行っている状況である。簡単に言えば、決算の関係と事務上の関係でこの時期になっている。今日の場合は公開の場であり、傍聴者の方もこれを持ち帰られるため、内容としては、ある程度きちんとしたものを出そうと思うとこの時期になる。本来であれば、5月、6月のところで出せればというところであるが、この時期になってしまっている。

河上部長

表現を変えれば良いだけではないか。そもそもこれは、2年度と3年度の継続事業で行っていることを記載せずを書くため、どうして3年度がここにポッと出るのかということになる。見た人は分からない。この検討委員会を設置するのは、2か年かけて行うことにしているため、3年度についての記載が出てくる。2か年かけて行う計画だという記載がないため、何故、ここだけ3年度においてもという表現が出てくるのか分からないのではないか。杉野本委員がおっしゃるとおり、この時期に何故、評価をす

杉野本委員

るのかと言われたら、継続事業だから入っているということになる。継続事業であるという事を明記すれば、特に違和感はなくなる。

私はこの表現に関わらず、全体的に評価の時期がこの時期になることに違和感があった。

河上部長

時期については、事務局が説明した様な理由である。

杉野本委員

各課で評価される段階で、2年度の評価を見据えながら3年度の事業も進んでいるということで、記載されている中でも今年度はもう既に行っているという様な話があったということは、評価を見据えながら進められていると理解して良いということか。

日ノ原係長

そうである。

岡田教育長

確かにPDCAで1年の振り返りを行い、それを次年度に活かそうと思うと時期的なものに違和感を持つことは分かる。

もう一つ言うと、項目が百数十項目あり非常にボリュームが大きい。総合振興計画を受けて、これから教育振興計画を作成していくが、その様な中で特に後期の計画は4年間で実施しなければならない事業となると事務局の中で絞込を行い、本当に集中して投資するものを表に出していく必要もあるのではないかという議論もしている。これからの自己点検・評価というのは、当然、総合振興計画に基づいていく。新しい教育振興計画上、ご意見をいただきながら、この様なやり方が良いのか、本当に今1番投資しなければならない幾つかの大きな事業ごとにやっていくのか、改めて中身について提案させていただきたい。そうなれば、決算の時期という事もあるが、やり取りするまでの時間というのは短縮されると思う。宿題として考えていきたい。

河上部長

戻っていただいて申し訳ないが、100ページのNo.74 歴史文化保存展示施設整備事業の内容の部分であるが、「平成28年度までの計画を見直し」という表現を使っているが、今回、事業名も令和2年度に変更したのは、元年度に整備方針を定めたことによって、それを受けて今回、名称も変更し検討委員会も設置している。平成28年度までというところは少し疑義があるため、確認させていただき、事務局で修正させていただくことで了解いただければと思う。

岡田教育長

事実に基づいて修正する可能性があるということをご了承いただければと思う。

それでは、教育委員会自己点検・評価表についての質疑は終わ

りたいと思う。また、これは修正したものを送付させていただく。もうしばらくキャッチボールすることになるが、本日、ご発言いただかなかったことについても、何かあれば改めてご連絡いただければと思う。よろしく願います。

3 部長・課長等報告事項

河上部長

令和3年度一般会計補正予算（第6号）説明資料（資料5）

資料5をご覧ください、9月の定例会議に出している補正予算である。既に第6号ということで、コロナの関係で毎回毎回補正が出ている。今回も基本的にはコロナウイルス感染症の対策がメインであるが、教育委員会から新規で石正美術館の施設改修事業を挙げている。3ページをご覧ください、教育費の23番、石正美術館施設改修事業ということで、収蔵庫内の空調機器の調子が悪く、再々異常停止が頻発していることから、建設後の年数も経過しており、なかなか部品もないということである。元々、令和4年度ぐらいには改修の予定にはしていたが、前倒しをするということで今回補正を出している。やはり、先生からいただいた貴重な資料を収蔵庫で温度と湿度の管理をしているが、これが維持できないと資料が傷んでしまうため、財政からも了承を得て、26,754千円の大きな金額ではあるが、今回補正予算に出している。明日が表決であり、了解をいただき次第、すぐに発注なり準備に取り掛かる予定としている。

個人一般質問 通告一覧（資料6）

1から3ページまでが一覧表になっている。今回は20名の議員方が質問をされて、教育委員会関係はそのうち10名の方から質問があった。冒頭に教育長からも話があったが、医療的ケア児に対する支援なり、給食関係、貧困、通学路、石見神楽等、様々な質問をいただいた。今回もコロナ対策のため、時間制限を設けており、質問の内容、数としても教育委員会は非常に少ない状況であった。

4ページからは個々の質問とそれに対する教育委員会の答弁を載せているため、またご覧ください。質問の中にある通学路の危険箇所ということで、美川の統合の話の時にも話が出ていたが、牛谷橋の先のカーブのところを地元の方もずっと言われていた。昨日、ここは県道ということもあり、県に

地元も要望したいということで、地元の自治会がまず市の建設部に要望というかたちで出された。私は教育長代理として一緒に話をさせてもらったが、10月になって県の土木の方に具体的に要望されるということになった。完全改良は厳しいかもしれないが、今、部分的にカラー塗装されていたところの色が薄くなっているため、少し広くしたいといった要望を出す動きである。

岡田教育長

ただいま補正予算の関係と個人一般質問の関係の説明があった。これらの内容について、質問等はあるか。

各委員

特になし。

岡田教育長

最近、議会の一般質問はケーブルテレビ以外にも YouTube で配信されており、議員さんごとに視聴することができる。ケーブルテレビより、見たい方の見たい部分を視聴できると思う。通告の中で見過ごした等あれば、改めてみていただければと思う。今回に限らず、また議会があるため、是非、教育委員会関係についてはご覧いただければ嬉しいと思う。

草刈課長

行事等予定表（資料7）

教育委員会関係の行事等予定表である。期間は9月28日から10月31日までのものである。備考欄に別添チラシありと記載があるものは後ほどチラシについて説明がある。今回、備考欄に無観客と表記があるものが多いが、浜田市中学校駅伝競走大会が9月29日、それから10月1日、2日の浜田市中学校新人総合体育大会、それから10月12日の石見地区中学校新人体操競技大会についても無観客で開催である。

10月19日（火）に幼稚園関係の教育委員会学校訪問に委員方に参加をいただくということで丸を付けている。

10月29日（金）次回の定例会の予定である。会場は本庁4階講堂 AB に変更になっているため、よろしく願います。

岡田教育長

私から補足をさせていただく。今、中学校の部活動については9月20日まで練習試合、それから他校等を交えた合同練習を控える様に通達を出していた。県の高校が9月30日まで同じ様な対応をとるということで、浜田市も延長して9月30日まで延ばしている。ただ現状、県内のコロナの感染者数であるとか色々な指標について、レベルを少し下方に移す状況に好転していることもあり、全国的にも蔓延防止地域であったり、

様々な行動制限や地域が解除されている。10月の新人戦については、基本的にはこれまでどおり、感染予防を徹底して行うことを考えている。おそらく練習試合等の禁止措置についても10月から解除する方向でいいかなと思っているが、改めて校長会会長とも相談しながら決めていきたいと思う。例年であれば委員方にお出かけいただいている行事でも、なかなか今は来賓を招くことが難しいが、こういった行事予定があるということをご承知いただければと思う。10月19日には幼稚園訪問を実施するため、よろしく願います。

永田副参事

長期休業中におけるはまだっ子共育推進事業について(資料8)

この期間中に各まちづくりセンターにおいて、小学生を対象とした「はまだっ子共育推進事業」の活動の一部を地域ごとに報告をさせていただきたいと思う。また、この実施にあたりコロナ感染症対策を十分に行いながら実施している。

まず全体で、浜田地域においては7センターで25事業、金城地域では6センター、重複している部分もあるが15事業、それから旭地域では5センターで、こちらも重複しているものもあるが7事業、それから弥栄地域では2センターで重複しているものも含めて6事業、三隅地域では6センターで重複も含めて18事業ということで、全体で71の事業を実施している。

地域ごとに紹介させていただきたいと思う。浜田地域については、浜田まちづくりセンターが実施した「海活」である。主な特徴としては、地域内にある原井小学校、雲雀丘小学校、松原小学校3校の児童を対象として、地元の海、地域資源を活用した体験活動を実施している。

それから金城地域については、「夏休みお楽しみ会！～子ども会議&逃走中」といった事業を実施している。この事業については3センターが連携して行った事業で、実施にあたり子どもたちが子ども会議を開いて、子どもたちの企画も取り入れながら行った事業である。

裏面をご覧ください、旭地域では「わんぱくDAYキャンプ」の事業を実施している。この事業では旭地域にある全てのセンターが関わって事業を実施し、地域内の都川地域を題材としたウォークラリーを実施している。

続いて弥栄地域においては、「夏休み川遊び交流会」という

	<p>ことで、弥栄地域の各種団体の合同の開催、それから支所の職員、地域住民の方々など幅広い方が参加しての活動となった。</p> <p>続いて三隅地域においては、「いのっ子たちの夏！1泊2日わくわく研修」ということで、この事業については放課後子ども教室のいのっ子クラブが主催となって実施している。県大生が企画から参加をして実施している。それぞれ各地域で実施した特徴のある事業を紹介させていただいた。報告については以上である。</p>
岡田教育長	<p>夏休み期間中に、各地域で様々な共育推進事業が展開されている報告であった。コロナ禍ではあるが、これだけの事業を企画、実施されて有難くよかったと思う。</p>
杉野本委員	<p>委員方からご質問、ご感想等あればいただければと思う。</p> <p>旭地域で実施された「わんぱく DAY キャンプ」であるが、都川は今市と統合してもう学校はないが、都川を会場として行われて、子どもたちが来て地域の方々も非常に喜ばれているのではないと思う。非常に素敵な企画であったと思う。</p>
永田副参事	<p>学校統合して、地域に子どもたちがいなくなってというところもあり、地域の方々も元気をもらえたり、また子どもたちにも広く旭地域を知ってもらおうということで今回企画をしている。</p>
花田委員	<p>基本的にはまちづくりセンターが主体となって企画したものに、子どもたちの参加を募ったのか。</p>
永井副参事	<p>基本的にはそうである。中には金城地域の様に、子どもたちも計画の段階から加わって実施している事業もあるが、主にまちづくりセンターの職員が中心となって企画して実施している。</p>
花田委員	<p>できれば金城地域が行った様なかたちで、子どもたちが企画し参画して、次は例えば中学生が企画したものに小学生を招待して、どんどんリーダーが入れ替わっていくみたいなかたちで、その力をまちづくりセンターの中に取り込んでいって、まちをどうする？みたいなどころに参画させていく仕組みが作れたらとても素敵な浜田市になるのではないと思う。金城の例は非常に良いと思う。ずっとお客さんで居続けるよりも、そういった視点で取り組んでいただければと思う。</p>
永田副参事	<p>今いただいたご意見も各センター長会議等でも紹介させていただき、そういった視点を持って活動、事業を組み立てるこ</p>

宇津委員

とを話していきたいと思う。ありがとうございました。

関わっている大人も非常に喜んで楽しんでいる気がする。この事業を継続していく上では非常に大事であると思う。非常に微笑ましい感じが伝わってくる。

岡田教育長
各委員

その他はよろしいか。

特になし。

岡田教育長

いただいたご意見等を伝えてもらって、更に取組が深化してより元気のでる様な取組ができればいいなと思う。

鳥居室長

令和3年度全国学力・学習状況調査結果（概要）について（資料9）

先ほども少し申し上げたが、詳細については分析中であり、次回の教育委員会定例会で報告をさせていただければと思う。資料の1ページの2番、各教科の平均正答率をご覧いただき、目標が県平均を超えることを目標としており、県と比較する部分を太枠にしている。小学校は国語が-2、算数が-3である。昨年度の調査が中止となったため、一昨年度と比較してもマイナスでなる。中学校については、国語が-1.0、数学が-2.0で一昨年と比較するとマイナスの幅は減少している。

2 ページ目をご覧いただき、それぞれの学習指導要領の領域ごとの正答率を出している。この中で特徴的であったと思うことあり、後ほど説明させていただく。

3 ページをご覧いただき、経年比較をしたものである。学習指導要領が違うため全てとは言い切れないが、小学校で令和元年度に持ち直したものが元に戻ってしまった。平成30年度並みに戻ってしまった状況である。

中学校については、平成30年度から見ていくとやや改善傾向が見られる。

(3)対象学年の県との差について経年比較をしてみた。現中学校3年生については、現小学校6年生の全国学力状況調査から見ると国語・数学ともに1ポイント増えて、若干改善しているのが見て取れる。小学校6年生については、小5の県の学力調査としか比較できなかったが、国語が落ち込み、算数については若干良くなっている状況である。

(4)問題形式別の県との差で特徴的なことが見えている。一

番下に記述式とあるが、特に小学校について、ポイントは国語が-4.2、算数が-3.9であるが、細かく見ていくと無回答は少ない。ともかく頑張っているが、間違っている。だが、あきらめずに頑張っているところは評価したいと思う。あと一味、少し指導についても改善が必要である。そうすると少し変わってくると思う。

4 ページをご覧ください、(5) 正答率の分布である。それぞれ教科ごとに挙げている。見ていただければ分かる様に、上位層へ中位層を引き上げていくことが必要である。当然、下位層を中位層に上げていくことも必要であるが、今回の結果では詳しく述べていないが、学校の質問紙調査で校長先生方が自己評価するものがありそれで見ると、補充的な学習、発展的な学習についてのポイントが全国、県と比べても特に小学校は少ない。その辺りを改善していかなければならない気がしている。

5 ページの下段にアンダーラインを引いているが、ここが一番のポイントであると思っている。知識・技能の定着に向けた取組を更に充実させていくことは当然であるが、思考力・判断力・表現力、例えば課題について資料等から必要な情報を選択する力をつけて、その根拠を明らかにしながら理由や自分の考えを論理的に説明したり、記述したりする力の育成が少し足りないと思っている。先ほどの算数・数学で指摘を受けたが、ここでかなり躓いている。そのため、問題が解けない、上手く論述できないということが起こっている。それから、先ほど申し上げた少人数指導等をはじめとした個に応じた指導を充実していく必要があると考えている。

6 ページから7 ページにかけて、校長の自己評価から学校質問紙の評価を挙げているが、今回特徴的であったのが、小学校の校長先生の自己評価と中学校の校長先生の自己評価が分かれている。中学校は良く小学校は悪い。両方悪い、両方良いなら納得できるが、校種によって反対の評価が出ているという点が課題であると思う。設問等々が子どもの意識調査とリンクしているものもあるが、校長先生の自己評価は子どもたちの意識調査を裏付けている結果も出ているため、あながち校長先生方が適当に付けているわけではないと思う。小学校で算数と国語のポイントが今回落ち込んでしまった原因はそこにあると思

っている。小学校の授業改善が少し低調である。これは昨年度の小学校の子どもの意識調査からも一昨年並み、あるいは落ち込んでいる。中学校は全ての項目が上がった実態があったため、その辺りが裏付けている。小学校では研修を一生懸命取り組んでいるが、これが授業に反映しないのはなぜかといった辺りを、今後各学校、我々も含めて考えていかなければならないと思っている。非常に大まかな説明で申し訳なかったが、「主体的で対話的で深い学び」が今回の学習指導要領の目玉になっているものについて、詳細な分析をした。全国の場合、県の状況、浜田市の状況が3年間でどうなっているのかを見て、そこから課題が見えてきた。10月6日の校長会では課題等についても報告をして、研修も実施させていただきたいとお伝えする。本格的に授業改善に取り組んでいきたいと思っている。

第5回（9月）市校長会資料（資料10）

9月の校長会での報告である。1番の全国学力・学習状況調査の結果については、先ほどお話ししたとおりである。

2番の平和学習の依頼については、今3校から希望がきており、連合会の会長さんにお伝えをしているところである。

3番のICT機器を活用した授業実践の共有についてであるが、各学校でICTを活用した授業を実施する時には連絡をいただき、こちらから取材に行く。その取材をしたものを基にしながらICT活用ハンドブックに反映させていく。あるいは、情報提供として全ての教職員が見られる様なところに保存をしていく。本日も午前中に国語の授業を見学に行ってきた。

4番については、新学期が始まり子どもたちの学びの状況を的確に見取りについての情報提供である。以上である。

ただいま資料9、10の報告があった。ご質問等あれば願います。

岡田教育長

花田委員

資料9の5ページの下段の児童生徒の意識調査からのところで、「自分には良いところがあると思う」と回答した児童生徒の割合で小学生が非常に落ち込んで、中学校は若干上回っているが、この辺りの結果について分かりにくいと思うが、どういふ分析をされて結論としてはどうなのか。

鳥居室長

結論が見えていない。特に小学校については、学校では小まめに先生方は子どもの良さを認めたり、色々な提出物にコメン

トを付けて返したり、子どもたちが良い気持ちになれる様に取り組をしているはずだが、それを子どもたちが実感していないところである。学校だけではなく、家庭まで含めてどうだろうと考えた時に案外分からないが、家庭で本当に子どもたちが評価してもらえたり、温かい言葉をかけてもらっている子どもたちがたくさんいるのかなというところについては、少し課題がある気がしている。しかし、これも調査したわけではないため、はっきりしたことは言えない。

中学校についても結論が見えていないが、小学校の子どもたちよりも自分で自分のことが分かってくるため、他者評価というところが多少なくても自分の良さを感じている。例えば部活であったり、色々なところで感じる事ができるのかなと思うが、これもまた調査したわけではないので分からないがただ、自己肯定感が低いというのは残念である。

花田委員

小学校が非常に下回ったということに関して個人的な考えではあるが、令和元年度と令和2年度で違ったことと言えばコロナの状況であると思う。子どもたちへの影響として、結構禁止等が多かった気がしている。1年間で比較したら随分違うと思う。子どもたちは我慢を強いられて頑張ったかもしれないが、自分が大事な存在ではないと思ったのかなと思ってみたりした。運動会等で自分の良さが発揮できるところが色々な場面であったものがなかったりしたために、コロナ絡みであったとも感覚的には思う。コロナの影響でこの数値が出るのであれば、浜田市の子どもたちだけではなく、この環境下で子どもたちに対する影響がどの様に表れているのか、子どもの権利という意味でも子どもたちにとってお構いなしに行われたことが多くあって、そういったことで自信を失っていく子どもが増えていくということは、将来にわたって彼らに影響を及ぼすと不安を感じる。きちんと考えるべきポイントであると私は感じている。

鳥居室長

文科省が分析をした中で、点数に現れる部分についてはコロナ感染症で臨時休業や影響は見られないということであった。ただ、意識調査については文科省も言及していない。この辺りがよく分からないところで、花田委員が言われた様に注視していく必要があると思っている。

杉野本委員

想像であるが、学校行事がどうしても減ってしまい、特に異

学年との関りも遮断されていくと教室の中では自信が持てない子でも下級生相手だと得意だよとか、お兄ちゃん、お姉ちゃんと呼ばれて自信を持つ場面が増える。そういった機会が少なくなり、学校行事や人との関わりが減って、地域の方からも「よく頑張っているね」など言ってもらえる機会も少なくなって、先ほど言われた点数では見えない部分であるが学校での大切なところであると思う。特別活動であったり、隙間の掃除の時間や登下校の時間等、子どもたちが自信を持つことができる場面がコロナのため減少し、残念であるのかなという気がしている。

岡田教育長

実際に意識の調査で、本当にこれが原因なのか、なかなか分りにくい部分もあるが、いずれにしても下がっている自己有用感を上げていくことは非常に大事であると共通意識でいる。学校だけでなく、家庭や地域も含めてどう取り組んでいくのがか問われる。先ほど、まちづくりセンターでの活動の中でもあったが、親子で参加をして親の姿を見たり、地域に貢献している人の姿を見たりして育て、自分がそうなることで褒められたり、そこは続けてやっていかなければならない。大事にしていく必要があると思う。分析はなかなか難しいかもしれない。

各委員

その他はよろしいか。
特になし。

田中課長

サン・ビレッジ浜田アイススケート場の開館日変更について(資料 11)

通常は10月10日からの開館であるが、近年外気温が高温化しており、今年度についても既に10月も例年より高めの予想が出ている。そのため、3年続けてであるが、開館を11月20日に変更して冷凍機への負担を軽減することを9月議会、委員会でも報告をしている。なお、この変更については3番の周知方法にもある様に、様々な手法により周知を行っている。

第15回浜田市総合スポーツ大会について(資料 12)

開催の日程について載せている。昨年度については、柔道、バスケットボールがコロナのため中止となり、その他は雨天でウォーキングが中止、スキーはスキー場の休業のため中止とな

岡田教育長
各委員

った。4つの競技が中止となったが、現時点ではこの予定で開催される予定である。

以上、2点の報告についてご質問等あればお願いします。
特になし。

4 その他

(1) その他

岡田教育長
田中課長

事務局からその他何かあるか。

本日、お配りしている配布物についてであるが、浜田市美術展のチラシを付けている。例年であれば、教育委員会定例会で公募展の審査結果等も報告をさせていただいているが、実は本日、ちょうど今審査を行っているところである。そのため、今回はチラシをお配りさせていただいて、審査結果については後日委員方に送付をさせていただければと思う。以上である。

岡田教育長

その他に関係するチラシも付けているため、興味を持たれたものについてご来館いただければと思う。

各委員

委員方からご報告やご質問があればお願いします。

岡田教育長

特になし。

ありがとうございました。

次回定例会日程

定例会 10月29日(金) 13時30分から 浜田市役所本庁4階講堂 AB

次々回定例会日程

定例会 11月19日(金) 13時30分から 浜田市役所本庁4階講堂 AB

15:45 終了